

長与町議会50周年記念事業  
特別委員会会議録

(平成30年10月1日)

長 与 町 議 会

長与町議会50周年記念事業特別委員会会議録

本日の会議 平成30年10月1日

招集場所 長与町議会議事堂（会議室）

出席委員

委員 長	金子 恵	副委員長	河野 龍二
委員	浦川 圭一	委員	中村 美穂
委員	安部 都	委員	饗庭 敦子
委員	安藤 克彦	委員	分部 和弘
委員	西岡 克之	委員	岩永 政則
委員	喜々津 英世	委員	山口 憲一郎
委員	堤 理志	委員	吉岡 清彦
委員	竹中 悟		

出席委員外議員

議長 内村 博法

職務のため出席した者

議会事務局長	谷本 圭介	議事課長	富永 正彦
参事	森本 陽子		

本日の委員会に付した案件

- (1) 今後の取り組みについて
- (2) その他

開会 9時30分

閉会 11時27分

### ○委員長（金子恵委員）

では始めたいと思います。皆さんおはようございます。定足数に達しておりますので、本日の長与町議会50周年記念事業特別委員会を開会いたしたいと思います。先日より、議会運営委員会からの報告の中で特別委員会の設置ということでお話がありまして、9月定例会において、皆様の議決により、この委員会が設置されました。これによって、一応ですね。幾つかの提案がございましたけれども、特別委員会を設置したということで、改めて50周年事業に値する事業、そういうものの検討をまず行っていきたいなと思います。皆様からですね、意見御提案等をお伺いしたいと思いますが、ここの部分から始めさせていただいてよろしいでしょうか。では早速ですが、50周年記念事業ということで、皆様から議会運営委員会の3つの事業提案は別に置いて、何か御提案がございましたら、どなたからでも結構です。御意見いただけたらと思います。

吉岡委員。

### ○委員（吉岡清彦委員）

おはようございます。今、提案がありましたけど、私は私なりに、こういう話が出たときから一応提案というか、提出はしとったわけですけども、1つはやっぱり議会の歩みとかね、歴史とか、そういうのはやっぱり何かの形で表していいんじゃないかと思っております。これがどういう形で、全住民に行くのか。あるいはまた特別な人だけでやるのかっていうのがまた出てくると思いますがね。それとあと町の方も、町の50周年記念誌とか、何かそういうのが発行されるみたいですので、それにセットして末尾の方に載せてもらうか。あるいは町議会独自で発行するのか、あるいは定例刊行っていか、議会ごとに発行してる議会だよりか、あれの末尾の方に載せるかですね、その三つの方法があって、どういう配布の仕方どこまでやるのかっていうのが、出てくると思いますがね。だから歩みとか歴史かって私なりに賛成はしてきておるわけですけども。あと他の事業として、ちょっと私もそのすぐ提案したのが、議会人として我々として50年を契機に、今後どういう形の流れを望むかっていう、意見とか提言とか提案とかね。そういう未来を語るとか、今後の50年を語るとか、そういう形でもあってもいいんじゃないかという、その2つの私なりに提案してきましたので、これはあくまでも、あとの方の提案が私のあれですけども、それをどうするか、あとほかの事業はですね、ちょっと、余りよくないんじゃないかという気がしておりますので、大きく分けて、歩みっていか歴史、そしてまあ議員のそういう語るとかね、大きな二本立てが私の基本的な考えであります。一応私なりに発言しておきます。以上です。

### ○委員長（金子恵委員）

ほか、どなたかないでしょうか。いいですか。

竹中委員。

### ○委員（竹中悟委員）

今日は議長がお見えですから、この特別委員会というそもそも論からね、ちょっと、

委員長もなかなかこの進め方難しいと思うんですね。ですから、参考までに皆さん方も聞いていただきたいんですけど。ちょっと議長の方に、この特別委員会というのは私もこういうケース初めてなもんですからね、32年間で今まで調査審査、それから98条100条の委員会というのはありました。しかしながら執行を要する特別委員会というのは、他県を調べてもほとんど例が無いんですね。ですから、これについて、私たちはルールの中で、要は議会というのは生きてるわけですから、特別委員会、私も賛成しましたので、今さら反対とかそういうことじゃないんですよ。今委員長が進めやすいように僕は話をしてるわけだから、誤解しないように。

それで、この4項目の中でね、まず議長はどう項目をもって特別委員会ということを諮問されたのかというのがまず1つ。それから、特別委員会というのは当然の中で精査、調査をして、それを諮問した議長に答申をするという大きな役割があるんですね。そしてここで実行するというのはいないんですね。私も昔からずっともう皆さん方に何回も言ったことあるんですけど、町長諮問と議長諮問というのは、全く違いますのでね。議長諮問というのはあくまでも調査審査して議長に答申をする。そしてあとの行動は、要は議長がお決めになる。いうことですね。だから今新しいのは報酬委員会というのが今までありましたね。これは発委でやったわけですけど、私最後に議長に質問させていただいたときには、その結果をもっても何も町の方にはアクションを起こさない。そういうふうなお話だったんですね。ですからもうそういうのも含めましてね、要はあくまでも二代表制の中の私たちは議決権を持つ組織であり、執行権を持つ組織じゃないですね。ですから予算が伴う部分についてもですね、言葉にすると要は町長諮問以外の議長諮問であればその予算の執行というのはできないと私はそういうふうに解釈していますよ。そういう部分でなかなかこの委員会の進め方って難しいなと思うんですね。ですからそういうのを頭の中に入れながら、それからあと財政措置をどうするのか。もし財政が発生した場合ですね。これは長与町の財務規定ですか、14条か何かあるんですけど。お金が足りないときは補正予算。それから流用ですか、それからあと予備費。この三つの中でお金を作るとあってですね。予備費と流用というのは、危険災害とか急遽あるときのための費用であるわけですね。そうすると補正予算ということではかない。この補正予算を上げるということになると、これは私どもの方は、私たちはいつも執行部側に議決権を持って調査をしてるんですね。私たちの補正予算は誰が審査をするのか。そうなれば、要は住民監査請求というのが当然出てくる可能性が出てきますよね。ですから、そういうのを是非頭に含めながらね、要はこの委員会は進めていかなくちやいけないと。ですから、まずその財政問題それから特別委員会の諮問された趣旨をね、議長の方からもう1回ちょっとお話をいただいて、そして回答もらって、私も質問させていただくか、お進めいただくか、そういうことになると思うんですね。

#### ○委員長（金子恵委員）

議長。

○議長（内村博法議員）

今竹中委員がおっしゃられましたように、当初これは議会運営委員会で行ってまいりました。その途中でやはり全員が参画したほうが良いという話になりまして特別委員会を設置するということになったわけでございます。それでこの特別委員会、先程竹中委員が言われましたように、記念行事で特別委員会を設置した例ってというのは私も聞いたことは無いです。ただし特別委員会を設置して記念行事をしてはならないという法律もございません。したがって、これまで調査研究を行ってまいりました特別委員会がですね。記念事業についての調査研究を行うということで御了解をいただきたいと思います。執行というか実施についてはですね、やはりそれなりの機関を別に持つ必要があるんじゃないかなと思ってます。プロジェクトなり、あるいはワーキンググループなりですね。そういったところで実施する必要があるんじゃないかなとこんなふうに思っております。それはこれから特別委員会で審査していただきたいと思います。これが1点ですかね、それから財源の面についてはですね。議会事務局の方から回答させます。

○委員長（金子恵委員）

局長。

○議会事務局長（谷本圭介君）

おはようございます。財源のことですけれども当初全員協議会でこの50周年記念事業についての話をさせていただいたときに、議会事務局としては特別予算としては持っておりませんということで、あくまでも小規模になりますということをまずお話ししたかと思えます。ですから補正予算を新たに組むということではなくて、既定の予算内でできる範囲でお願いしますということで、皆様には御説明をしたかと思えますので、そういうことを踏まえながら検討調査をしていただければと思っております。以上です。

○委員長（金子恵委員）

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

ある程度趣旨は分かりました。まあそういうことですから、要は結局私たちもこの委員会というのは、進めてからね、今やってるから、調査をしてね、審査をすると。それでそれを議長のほうに答申をするということで良いついていうことですね、そういうに確認していいわけですね、それだったら私たちも理解ができます。それとね、あと財政面につきましてはね、その既定の中の金額というのは余り不透明なんです。目的外使用ということも出てくるしね。これについてやっぱり慎重に数字を出していかないと。さっき言ったように、住民監査請求等が出てきますのでね、この辺は確実に守っていただきたいと思います。そうすると特別委員会の設置の2項目ですね、要は本会議において特別委員会が常任委員会に付託できないものを調査審査をするってその1、2項目で結局委員会を進めるという理解でいいわけですね。はい、分かりました。

○委員長（金子恵委員）

ほかにありませんか。

饗庭委員。

**○委員（饗庭敦子委員）**

では私は内容に関して、この特別委員会で行うというところで当初の全協でも申し上げたかと思うんですけども、町制施行50周年として議場コンサートをしてはどうかというのが私の最初言った意見。で、今あった予算の関係はそこまで把握ができておりませんので、それでできるかどうかというのはですね今回検討していかないといけないかなと思っておりますが、記念行事の一つとしてそういうのをしたら、議会でも何かやってるよっていうふうになるのではないかというふうに思います。以上です。

**○委員長（金子恵委員）**

安部委員。

**○委員（安部都委員）**

私も饗庭委員がおっしゃるようになりますね、これまで議会運営委員会で数回、皆さんで審査をして調査してきたわけですけども、話し合いをしてきた中で、やはり50周年記念事業特別記念誌そして、議会の活動報告書、そしてまた議場コンサート、それとその他で講演会などもですね、3点ほど出されましたので、あと後3カ月足らずでありますので、やはりそこはもう白紙に戻すことなくですね、これまで協議をしてきた中で、活かしていけばいいんじゃないかというふうに思っております。

**○委員長（金子恵委員）**

ほかにみなさん何か御意見御提案はありませんか。

浦川委員。

**○委員（浦川圭一委員）**

先程局長が既定予算の中でやっていくんだちゅうことと言われましたけど、実際この予算ちゅうのはどれくらい見込んでよろしいのでしょうか。その予算の額によってですね。取り組まれることが違ってくると思いますので、おおむねで結構ですので、

**○委員長（金子恵委員）**

局長。

**○議会事務局長（谷本圭介君）**

今時点で、これだけ余裕がありますから、この範囲で幾らっていうのはちょっと申し上げられないんですが、あくまでもその内容ですね、どういったことをやるのか、候補に今まで上がったのが一応形としては3つほど上がってるということでこの間説明ありましたけれども、それを全部やるのかあるいは1つやるのか、具体的にどれぐらいの費用がかかるのかとか、例えば記念誌等によりましては、印刷するのにどれぐらいの費用がかかるのかとかそういうところがまだ確定しておりませんので、そういうことが段々分かっていって調査の結果を踏まえてまた検討していきたいと思っております。

**○委員長（金子恵委員）**

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

そしたら既定予算に限らず補正もあり得るっちゅうことで、今、既定予算の中からおっしゃったからですね。ある程度額が決まらないと、今言われたその記念誌とかなんとかの話は今からの話で、まだ一切出とらん状態ですよ、今ですね。だから何をやっていくかと決めるときにじゃあお金は幾らあるんだという話ですよ。そこをちょっとお聞きせんと意見の出しようがないんじゃないかなと思ってお聞きをしてるんですが。

○委員長（金子恵委員）

局長。

○議会事務局長（谷本圭介君）

おっしゃることは大変よく分かります。ただですね、まだ何をするか決まっておりますのでこれだけ余裕がありますからその中でできること、どれもこれも全部やろうということでもないかと思しますので、まずある程度その目処が見えてからですね、それが実際今持つてる、執行している予算の中でですね、やりくりがきちんとできるかというのは、また、改めて形が見えてきた時点です、判断をさせていただいて皆様に御報告をさせていただければと思っております。

○委員長（金子恵委員）

ほかにありませんでしょうか。

堤委員。

○委員（堤理志委員）

今回の特別委員会ができた経緯を以前お聞きしたときに、元々議会運営委員会の中で、議論をしてきたということだと説明を受けましたので、私自身がまだよくどういう議論があったのかも知らない、よく分からないので、是非議会運営委員会で積み上げてきた議論があるっていうんだったらそれをベースにしながら、今日出されたほかのですね、例えば議会の歩みであるとか、その辺りもまた加えて、要するに議会運営委員会でベースとしてきたものプラス今日出された意見を合わせて議論を進めていって欲しいなというふうに思います。以上です。

○委員長（金子恵委員）

議会運営委員会での事をベースということですけども。ほか、ありませんか。まだ意見をお伺いしてない方から、お伺いしたいなというふうに思いますけれども。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

冒頭ですね、竹中委員言われたように、議会には予算の提案権も執行権もない中で、こういうことをやっていこうということが決められているようでございますけども、その原則を是非守りながらですね、いろいろやることを決定をして、私は町がせっかく50周年事業というのを計画をされておりますのでですね。そういった中に組み込んで

やるとかですね、そういったのも選択肢として考えるべきだと思っておりますので、まずその議会の原則を外さないところで計画していただきたいというふうに思っておりますので、そこは私の意見で言わせていただきます。

○委員長（金子恵委員）

安部委員。

○委員（安部都委員）

先程、吉岡委員の方から今後の長与の未来を語るというところで提案がされましたけれども、私もこれは何かすごくいいなと思っております。例えば、試行として一人一人に長与の未来についてインタビューを町民の方と議員の方、それぞれ一人一人にインタビューをして、それを、例えばプロジェクトマップングにして流す。で、議場の中で流すとか、場所はどこでもいいんですが、例えばそういうふうにですね、こうなんか、コンサートしながらこうプロジェクトマップングにまとめたものを流すとか、そういったものもあるのかなというふうにも思っております。

○委員長（金子恵委員）

中村委員。

○委員（中村美穂委員）

私も50周年事業について、何か議会の方でやりたいというのは分かるんですけども、予算っていうか、財政面がどうなのかっていうところもありますし、例えば記念誌とかは一緒にやれるところはやれないのかなという気持ちがあります。それから、議場のコンサートっていうのはすごくいいのかなと思うんですが、事実上中学校とか吹奏楽部の方に出演していただいて、それを聞きに来る場所というか、傍聴席とかになるのかなと思うんですけども、限られた人になってしまうというところもあって、これはいろいろそのどういうふうにするかとか、どうしたらいいのかとかそういうことを検討していくものなのかなと思うんですが、何かやりたいというのは良いことだと思うんですけど、そこがちょっと分からないところであります。以上です。

○委員長（金子恵委員）

皆さんの御意見をお伺いしたいと思いますので、  
喜々津委員。

○委員（喜々津英世委員）

議運でずっと協議した立場がありますので黙っておったんですが、議運の中では先程出てますように、議会の50年の歩みとか、あるいは議会改革の今期我々の任期中の議会改革の内容、議会白書まではいかないにしても、議会を知ってもらうという意味ではそういった記録を町民の皆様にも理解していただくためにもそういった発行が必要でないかということと、それからコンサート、そしてあと記念講演会というものも話が出ておったんですがやっぱりなかなか。講師、当然、講師謝礼とかいろんなものが出てまいりますので、そういったものは難しいんじゃないかなと思うのが若干ありましたけ



れども、そういったものも議題に上りました。それと吉岡委員から議員が未来を語るとありましたが、これについては、なるべく議会の記念誌とか活動報告、こういったものには、個人の議員名は載せないということが適切でなかろうか。そういう意味では、安部委員が言われたように、広く町民から町民が語る50年後とか、そういったものは募集して載せるということであれば、議会を身近に感じてもらえる機会にもなるということもありますので、そういったものは非常に良いんじゃないかなという思いがしております。確かに予算の関係等いろいろありますけれども、これは是非今から協議の中でどういったものが具体的に検討されていくのかということによって変わってくると思いますので、今後の議論に待たなければならないと思います。以上です。

**○委員長（金子恵委員）**

山口委員。

**○委員（山口憲一郎委員）**

私も議運の委員外でございますけども、一緒に議会運営委員会の話をずっと聞いた中でですね、私も、意見を出しながらきたわけでございますけども、先程安部委員が言われますように、やはりこうもう時期的にですね、まだここで決定をせんといかんとですけども、私の考えとしてはやはり早目にした方がいいんじゃないかなっていうこともあって、期間も無い中でですね。やはりこう、そういった、議運で語ったことを参考にしながら進めていければいいのかなと思っております。ただ、先程議運長も言われてましたように、私は講演についてはですね、若干ちょっと疑問がありまして、ちょっと無理があるのかなっていう思いがしております。そしてまたいろいろこう出ておりましたけれども、例えばコンサートにしても、中学か高校か分かりませんが、やはり、ちゃんとルールに乗って進めていって、決まった場合はですよ、決まった場合は、ルールに沿ってしていただければなという考えでおります。

**○委員長（金子恵委員）**

分部委員。お願いします。

**○委員（分部和弘委員）**

今、吉岡委員の方からと議運が示したやつがそれぞれ出てますけども、逆に予算化を見積もりとってですね、どれができてどれができないのかっていう手も出てくるのかなと。あとはどれだけ議員の皆さんが汗かいてコストを抑えられるかっていうとも参考にしながらですね。是非、予算オーバーじゃなくて、どれだけコストも抑えてできるかっていうことも検討の余地もあるのかなというふうに思います。

**○委員長（金子恵委員）**

安藤委員いかがでしょう。

**○委員（安藤克彦委員）**

おはようございます。私はちょっと皆さんと違うんですけども、違うと言うか、最初の議会の4つ出てきたかなと、議会の歩み、長与を語るコンサート公演会。議会の歩

み、長与を語る、先程喜々津委員から白書というお話もあったんですが、それについて私はいいのかなと思います、コンサート講演会は私は逆に必要かなと。コンサートについても、このあいだ仮でしょうけども、議運の話では1月ぐらいしか日程がとれないというのがありましたよね、3校これかなり運搬に予算がかかる。まして3校入れ替え、仮にこないだの話では3校入れ替えですとなると相当な何か無駄な時間というんですかね、かかると思うんですよね。それと講演会は今お話が出たように、ちょっと、どうかなくて。私が危惧するのは私たち改選が近いということなんですよ。もう日程が本当に限られている中で、それも町がまだ行事を打つ前に我々が先にこういった講演会とかコンサートを開くのが果たしてどうなのかな。だから私はするならば町行事と一緒に、あるいは町がするのに協力するとかという形がいいんじゃないかな。単独で我々がするっていうコンサート、講演会については反対です。

**○委員長（金子恵委員）**

先ほど饗庭委員から議場コンサートということで御意見いただきましたけど、ほかはよろしいですか。

西岡委員。

**○委員（西岡克之委員）**

議運の中では余り言えなかったんですけど。もし例えば記念誌が予算が無ければ町のと一緒に乗っかって議会のページを作ってもらえばいいことで、単独で是非でも出さなければならぬということはないと思います。それと分部委員が言われたように見積もりをまずとって行わなければ議論をさんざんして決めたあと、これができませんあれができませんでは、何のための議論なのかなってということも思います。いっそのこと町の行事に乗っかって共催という形でやればいいんじゃないかなって。予算もクリアしますし、労力もクリアしますので、そっちの方がいいんじゃないかなっていうふうに個人的には思っております。またコンサートにしても、一部ちょっと住民の方とお話をしました。そのコンサートは何でコンサートなんですかと、全部の学校でするんですかといういろんな疑問を投げかけられまして、いやまだ途中ですからはっきりしたことは言えませんっていう形で、そこでお話を止めおきました。そういう形でも先程いざ行ったら、3校入れ替えてどうするのか、見に来れる人も限定されるよねとかですね、そういう話も出たんです。重ねて、いやまだ候補に挙がってるだけで実際にやるっていう形ではございませんって話をしておきました。ですから先に、元に戻りますけどまず事業の概略をして見積もりをとってしなければ、ちょっと先に進まないのではないかなっていうふうに思います。以上です。

**○委員長（金子恵委員）**

岩永委員。

**○委員（岩永政則委員）**

おはようございます。ちょっと私こう視点を変えましてね。順序を追って話をしてお

互い理解をしたほうがいいんじゃないかなということを感じたわけです。今までの時間の中でですね。ということは議運でやってきたことはもうその報告があったとおりですね。8月27日に全員協議会で、今までのことの状況から素案という面ですね。議運長から詳しく説明をしですね。それで事務局からも説明をしですね。そして、それを若干議論をしてですね、先程竹中委員からもあったように特別委員会設置は賛成だといういろんなこう議論がありましてですね。それで具体的なことについてはそれでは特別委員会を設置をしていきたいと思いますということですね、一応全協で決まったわけですね。それを受けてですね、9月7日の本会議で、この特別委員会設置は15人ですね、目的が事業の実施検討ですね、これらの目的を持って設置をしましょうということになりました。そして委員長副委員長も選出をしてですね、それで議決をしてきたと、こういう経過から踏まえてですね。検討していく必要があるというふうに思うんです。

今予算が出ておりますけれども、8月27日の説明資料の中で記念誌等についてはですね経費が約30万と、見積りを事務局で取ったところ、32ページの2,000部で約30万ぐらい掛かります。という報告はあったわけですね。ただそういうものを念頭に、忘れないように頭に置きながらですね議論をしていく必要がある。ということを感じています。それともう1つはですね、事業の実施検討という、この特別委員会の目的ですね。当然常任委員会にしましてもね、特別委員会にしても、ここで検討をしてですね、そして、その調査結果、実施検討の結果は議長に報告するようになるわけで、これせにゃいかんですね。だからそこまでが特別委員会なり常任委員会の議決をするならしてですね、それを議長に報告するということですね。そのあとの例えばこの記念誌の発行等につきましてはね、こういうものでやろうとしたらいいんじゃないかという最終的なみんなの意見をまとめて、そして、その最終的なものを持ってですね、議長に報告して、それでそれを発行するのは長与町議会が発行するわけですから、決してその特別委員会が発行するわけじゃないわけです。これももう至極当然のことで、疑問とかを持つ必要全くない。特別委員会の役割はそこまでですから。コンサート等々についてもですね、もしやるならば、内容等を十分検討した上で、それでこういう方法でやったらいいんじゃないかということを検討しましたということを経験して、それでその実施はですね、長与町議会を代表する議長が中心になってですね。みんな一緒になって実施をすればいいわけなんで、だから決して特別委員会が事業実施まで処理しなさいよという議決をしてないわけですね。また法的もそうになってないわけです。あくまでも議長に報告して、議長が中心になって事業実施をして、発行の責任者も長与町議会、今、議会だよりについてもですね、編集は常任委員会、前は特別委員会でしたけど。編集は特別委員会あるいは常任委員会、それで発行は長与町議会。まあうちの場合は代表が議長誰々と書いてますけど。よそはもう長与町議会時津町議会というのはですね、そういう所が多いわけ。だから、発行の責任は議会がするということですから、事業実施をする場合もですね、議会全体がするというに、そういうことの予算的なものも踏まえてです

ね、いろいろ議論をしていけばいいのじゃないかなというふうに感じてるところです。

○委員長（金子恵委員）

では、何か事業に関して。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

さっきはね、私、議長にちょっとお尋ねしたんだけど私の考えから言ったら、今岩永委員が言ったんでちょっと僕も違和感を感じたんだけど、竹中さんも賛成をしたと。もちろん賛成はしましたけどね、内容はね、はっきり言って本会議で僕が言ったとおり、議会運営委員会で決定をされたから、私は議会運営委員会を尊重するという中で賛成をしたわけですね。しかし内容については全く真逆のこと言ったのを皆さん覚えてらっしゃると思う。だから、私もはっきり言ってコンサートについてはね、これはもう議会改革のことであってこの記念行事には入らないと思うんですね、それと私たちのサイドから、要は結局そのコンサートなんかブラスバンド部なんか見てるけどね、相手側から見れば非常に迷惑な方が多いらしいんですよ、はっきり言ってね。ていうのは1月というのはもう正月早々でもう家族みんな集まるし、それとあと今度は中学校3年生は受験がある。それで、要はここにその吹奏楽来るために練習をしなくちゃいけないんですね。そうするとそういう負担が掛かる。だから議会が言ったから、俗に言う忖度の中でね、OKが出せるかもしれないけど普通の人がいったら、それはとんでもない、やりませんよという話にしかならないと思うんですね。だから、基本的には私は50周年というのは、町の行事の中に一緒に入り込んでね。そして協力をすると。記念誌を出すときには、それについて議長が50周年の挨拶文を出すとか、あと先程の年鑑をね、それにつけていただくとか、そうすればもう予算面も全然全く問題ないわけです。その分について私も、記念誌とかそれぐらいだったら私も容認できるけど、ほかの分については余り私は、決まってしまうばそれはそれなりに協力しますが、私自身はそれは余り良くないと。特にねブラスバンドあたりは僕もちょっと嫌な経験がちょっと個人的にあるものですからね。だから、要は向こうが果たして喜んで来るのかなと。議会だから教育委員会を監視してる議決権を持つ議会だから仕方ないなという気持ちで来られる方もおられるんじゃないかなということも、一応私は考えています。ですから、全国を見ても、やはりその何周年というのはみんなやっぱり町とか市とか行政がやるんですよ。そしてそれに議会が要は乗って行って盛り立ててやる。そういうパターンになってるようなものだからね、そっちの方向に行けばいいなと。そのように思っています。

○委員長（金子恵委員）

岩永委員。

○委員（岩永政則委員）

ちょっとの舌足らずの点があったので、つけ加えさせていただきたいというふうには思うんですが、全員協議会の中で竹中委員の名前を今出しましたけども、特別委員会設置

は良いと、ただその町と重複しないようにしていくべきだという発言があっておりましたのでね、それはつけ加えさせていただきたいというふうに思います。それとこの記念コンサートにつきましてですね、議運の中での1番最初の議論のときに私はこんな言ったんですね。コンサートを議場でしてですね。見に来る席はですね。たった2、30しかない。誰が見に来るんですか。それで何が意味があるんですか。そんなこと必要ないんじゃないですかと言わんばかりの発言を私しまして、これ私の考え方だったですね、基本的に初めて聞いてね。そしたらよそでもやっておるとかなんとか、そういうことですね、後に議論して皆さんで決めていただければいいんじゃないのということですね、その後は何ら一切コメントしてこなかったわけですけどもね。今、あちこちありますように、みんなと一緒に決めて必要なのか必要でないのかは今からですので。素案ということで3つ出ておりますからね。その辺りをベースにしながら、また吉岡さんから提案があつとつたですね、8月27日の全員協議会の中で吉岡さんから21世紀を語るを提案したいということと言われておりましたですね、そういうものも含めた議論を今後していけばいいんじゃないかということでございます。以上です。

○委員長（金子恵委員）

堤委員。

○委員（堤理志委員）

ちょっとコンサートのことで意見を申ささせていただきたいんですけども、50周年記念って非常に節目の年にコンサートの場が準備してですね、で、各学校の吹奏楽部がそれをどう捉えているかっていうのはやはり、ちょっと聞いたほうがいいのか。是非そういうことなら参加させて欲しいっていうことがあればですね、そういう声が多数、各学校がそういうふうに思ってるんだったら是非参加して欲しいなど。恐らく個人的にはそういう発表の場というのを嫌がる学校は無いと私は思ってるのが1つと、それから3年生は受験だということですが、もう既に3年生は引退してるんですよ、今現在、吹奏楽部は1年生2年生が主体でやっているの、その点は心配が要らないということと、それから議場の席が狭いというのは確かにあるんですが、今ですね、インターネットのユーチューブ上では吹奏楽の演奏というのはたくさん上がってて、議場にも来られなくても、これはずっと記録としてユーチューブで放映することで、各学校がこの50周年記念でこういう演奏をしたっていうのは、ずっと残って子どもたちの記念にも残ると思うんですよ、そこの席にどうしても来られなかった方も親もユーチューブを通して、自分たちの子ども、保護者の皆さんともこういう形で演奏してるんだなということを見ることができるといふ点では、今の文明の利器を使って、非常に有意義なことができるな、問題は各学校が迷惑かかってるといふことならちょっとどうかと思うんですが、しかしそういうことなら是非参加したいということならばですね、ぜひ私は進めたほうがいいんじゃないかなという意見を持っております。以上です。

○委員長（金子恵委員）

吉岡委員。

○委員（吉岡清彦委員）

法的に触れるかどうか、私もそこまでは考えてなかったわけですけど、議運の委員長から個人的名前上げるのは何か法に触れるようなことをおっしゃったもんだから。それがあればね。それはよくないか分かりませんが、議会だよりにしても一般質問とかで名前挙げてるわけですね、これは議会の中での発言と思ってしたわけだから、それがこの部門がね、選挙法とかに触れてあれば、それはもうしなくていいのですので、僕の当初から局長宛てに出したわけですけども。それが法的に触れれば、やっぱりそれはもう止めた方がいいですよ。しなくていいですからね、しかし議会だよりの中でできてると思ってしたわけですけどね。まあ1回そういう経験があってるもんだから我々もね、21世紀を語るということで、これからの未来を語るような感じでもできないかってことでしたわけ。だから法に触れればそれはやらなくていいですね。あと当初言いましたように記念誌なり、あるいは歩み、そういうのを特別に作るにしても、配布所帯をちょっとと言いましたけれども、議会だよりは全て行きますよね。特別誌だったら2,000部とか言うからひよっとしたら行かないか分かりませんが、町の方の町の歩みとか、歴史とか、それもどこまで範囲をするのか分かりませんが、せっかくならば全てが町民に行く方法がいいかなと思ってね。議会だよりの末尾の方に歩みみたいな感じでね、あるいは歴史みたいな感じで何ページか載せてもらえば良いかなと思って、そういう案を出したわけですけども、だから配布先をどういう形で、どういふとこまでするかというのも一つの基準になるんじゃないかって、私なりには思ってるわけですね、町の方は50周年誌は全所帯配布するのちょっと分かりませんが、そういうことを含めながらね。だから配分先をどこまでするかというのが一つの基準なるかと思っております。

○委員長（金子恵委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

先程からですね、記念誌とかコンサートとかって言うていろいろ前回の素案の中に載っておるもので意見がいろいろ述べられておられるようですが、もう、この素案に載せておったこの3つの事業に限定して協議をしていくということなんですか。それとも、また別にあれば出して下さいというような話なんではないかな。そこをちょっと明確に言っていただいでよろしいでしょうか。

○委員長（金子恵委員）

冒頭申し上げましたように特別委員会が設置されましたので、議会運営委員会である程度の事業提案をさせていただきましたけれども、ゼロベースということで、今日新たに新しい提案等があったら御意見をお願いしたいということを申し上げたかと思っております。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

そうであればですね、やっぱりまずどういう行事をやりたいかとかっていうところで一応、出していただいて、それから先程から言うように事業に取り組めるのか取り組めないのかという議論にやっぱり入ってくべきだと思いますので、まずこの素案の3つですかね、3つは3つで認めるとしても、協議の俎上に乗せるという話で、ほかにもあるかというところで、あればそれも含めたところでちょっと進めていただきたいなど。そうせんと、いろいろこう聞きたいことも1個1個聞かせていただいていたきたいなどというのものもあるものですから。

○委員長（金子恵委員）

吉岡委員。

○委員（吉岡清彦委員）

私の当初言いましたように議会の歩みとかね、歴史なんかみたいなのもいいんじゃないかって、それはだからどういう形で配布するか、町に載せてするか自分で冊子を作るか、議会だよりの普段出してる議会後の4回の中の1ページの中の後ろの方にね、いいんじゃないか、そうすれば全所帯にいくか分からんってね、冊数だけやったらひよっとしたら行かないか分からんからね。町の方に載せてもいいけども、町の方も全所帯に行けば行くわけですね。だからそういうことを含めながら、一応議会の歩みとか、議会の歴史なんかはいいんじゃないかというのは私の一つの案ですね。それと何回も言いますように、我々が未来を語るような感じでね、またそれも良いんじゃないかということで2点をね、私なりに、案を改めてしたわけですね。私はですね。だから、ほかの事業はもういいんじゃないかということではね、私は。

○委員長（金子恵委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

私からも発言をさせていただきますけど、私も議運の中で議論してきた経緯があるので、まずはこれをベースに話を進めていった方が時間的な問題も含めて非常にスムーズにいくのではないかなというのが1つ。逆に副委員長の立場からすると、いろんな提案をしていただいてですね、それをまた一緒に検討していければ、非常に良いものができるのではないかなというふうに思っております。それとあと記念事業ですけども、岩永委員も言われましたけど、全員協議会の中で議会として単独でやろうというのが提案されたと思います。それについては、今いろいろ出ました町の行事と一緒にやった方がいいんじゃないかという部分も出ましたけども、ここも十分検討していてもいいと思うんですけども、やはり私が思うに、この間のやっぱり長与町議会の議会改革というのがですね、非常に目まぐるしく進んできたのではないかなというふうに、手前みそですけど自負してるところがあります。やっぱりこういう流れをですね、やっぱり多くの人にも知っていただきたいし、やはりこの間これまで、マニフェストで一定の順位に出てく

るという部分をやっぱり記念として残すことで、後世の長与町議会に対してもですね、こういう活動をやってきたという部分が残るという意味では、非常に財産になるんじゃないかなというふうに思います。あと記念事業にしても、やはりこの長与町基本条例で私たちが取り組んできた開かれた議会と、町民とともにという部分で言うと、やはり私たちが何でしょうね、議会だから審査してチェックして決議するというところだけではですね、やはり住民の皆さんが何をしてるのかというのが、なかなかこう理解していただけない部分がまだまだたくさんあるというふうに思います。こういう記念事業の中で議会に少しでも触れていただければですね、議会に興味を持って関心を持って、そういう部分では、また今後の議会活動に理解が深まっていくんじゃないかなというふうに思いますんで、何らかの記念事業をやることで議会に興味を持ってもらおうと。特に若い人たちに興味を持ってもらおうっていう意味では、このコンサートの部分も非常に良いのではないかなというふうに思います。これは決定ではないんですね、議論していく中で、そういう形でやれていければというふうに思います。あと、コンサートの件も先程ちょっと出ました相手があることだからというところで、これについては、議運の中でもいろいろ検討した結果、やはり私も聞いた範囲によると、特に中学校のブラスバンド部っていうのは演奏の機会が少なくてですね、そういう機会を与えてもらうのは非常に助かるという声も聞きました。先程ありましたように3年生が引退したあと、1、2年生が短い期間でコンサートをするという日時が決定すると非常に集中力が高まって実力も上がるんじゃないかという声も聞いてますんで、そういう機会を与えられるのならですね、相手側が了承していただけるのなら、是非やってみたらどうかなというふうに思います。

以上です。

#### ○委員長（金子恵委員）

時間を掛けてですね、各委員の皆様からいろんな御提案、御意見をいただいたわけですが、ある程度意見が割れてるっていうか、さまざまな御意見があるようですのでこちらの方を、また一つずつちょっと詰めていきたいとしたいと思いますけれども、とりあえず1時間ほど経ちますので、場内の時計で10時35分まで休憩したいと思います。

（休憩10時22分～10時35分）

#### ○委員長（金子恵委員）

休憩を閉じて委員会に戻したいと思います。先程ちょっと時間かけて皆さんにいろんな提案をしていただきました。それで4点ほどに絞られてきたのかなというふうに思います。1つが吉岡委員からの提案の議会の歩みというところと、それと記念誌、そしてコンサート、講演会と大体この4つが皆さんから出た意見なのかなというふうに思いますけれども、こちらの方ですね、どれを実施して、しないというところの検討も必要かと思えますけれども、この4つ、どのように進めていこうかというところで、反対の御意見もございましたので、議会誌にまず議会、

竹中委員。



#### ○委員（竹中悟委員）

4つと言うと余りにも早々で早過ぎるから、調査審査をするわけですからね、先程あれだけ意見が出たように、どんな分もあるのかね、今の話だと4つに絞ってしまって、もうすぐ何か決めるような形だけど。それはちょっと早過ぎると思いますよ。まずものすごい時間をかけてね、他の行政体でどんなもあってるのかとかそういうのを調べたり、また予算の面を見てどうなってるのかということもやはり調査審査をしないと特別委員会の意味が無い。だからもうちょっと時間をかけてね、決めたい気持ちは分かるんだけど、まだ項目についてね、もう今日すぐ目の前でやれとかいうことでなくてね、もうちょっと時間かけてやられたらいかがかと、僕はそういうふうに思う。

#### ○委員長（金子恵委員）

西岡委員。

#### ○委員（西岡克之委員）

私も今の竹中委員の意見に賛成でいろんなこうパートパートがあると思うんです。このコンサートというのもイベント性ですよ。だから無理矢理コンサートをしなくても、先程ちょっと総務の方に聞いたんですけど、役場の方でのど自慢の誘致をしようと考えておられるので。先程目につくだろうという御意見も出たのでそういうところで議会の共催という形で役場と執行側と話してみて、だから、長与町と下に議会と入れてもらって、共催でのど自慢の開催という形にすれば、お金も何も要らずに、中学校に対して気も使わずに、皆さんの目に全国に触れるんですから、ああ一緒にやってるんだなという形でイベント性はそこでクリアできると思うんですよ。だからそういうのを一つ一つやって、早目に決めなくてもいいんじゃないかなっていうふうに思います。以上です。

#### ○委員長（金子恵委員）

河野委員。

#### ○委員（河野龍二委員）

おおむね議会運営委員会で練ってきた部分の一つあってですね、これも進めていっていいんじゃないかという意見もありましたんで、ここの段階であれができないこれできないで排除するんじゃないかとですよ。やっぱり何ができるのかっていうのを検討していった方がいいと思うんですね、確かにいろんな意見が出て、いやそれは無理なんじゃないとか、お互いそういうふうな意見が出てますけど、本当に無理なのかどうかっていうところをですね、やっぱり検討して行って、その1つの例としてきっかけ出てきて議会運営委員会がやってきたベースにある部分を検討して、これでできるのかっていう事を進めて欲しいと。で、吉岡委員から提案された、こういうことができるのかどうかの調査、検討して欲しいというところをですね。だから記念事業も果たしてできるのかどうなのかと、いややらんでいいじゃないかと、できるのかどうかというところですね、検討して欲しいというところの提案だと受けとめていただければですね。僕はいいかなというふうに思うんです。その他まだ意見があるならですね確かにもうち

よっとじゃあほかの所はどんなことやってきたのかというところも、当然この調査の段階でやって、もうこれで絞って、これでもうやりましょうじゃなくて、その中でいろんなものが出てきたときにそれができるのかどうなのかっていうのをですね、検討していただければというふうに、私は思うんですけども。

○委員長（金子恵委員）

饗庭委員。

○委員（饗庭敦子委員）

今ですよ、最初にほかにありますかかって聞かれたわけですから聞かれた中で出たのが4つということ言われてるわけですから、それを今後どうやっていくかっていうのを話し合ったらいいんじゃないですか。時間がありそうでやっぱり時間が無いのでですね、やはり、その1つをどうするかっていうのを今からされるんであろうというふうに思いますので、これについてどうなのかっていうことで進めていければいいのではないかとこのように思います。

○委員長（金子恵委員）

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

町制50年の中だから要はまず行政が何をやるかということですね、私たちは把握しておかなくてははいけないし。そしてその予算面とか、いつまでにやると。議運の前回のを見ると任期中全部済ましてしまうんだというような感覚で思ってたので、私はもうそれは反対ですね、行政も1年かけてやるのに、何でうちだけその任期中4年、4月までやらんといかんとするか、個人の議員でやってるわけじゃなくて長与町議会としてやってるわけでしょ。そしたらやっぱり今までの先人の、結局先輩たちの議員もおられるし、また今度4月以降に、また4年間、来年から続けられる議員もおられる。そういう人たちのことも考えてやらないとね。だから、なんで相即に、あれを見ると1月7日に決めたんだとか書いてあったけど、あれはもちろん僕は参考にはしているけど全く頭には入っていませんよ。だから、この委員会は、あくまでも調査と審査をして、これが悪いとかそういうことでなくて、意見を皆さん出し合っていて、それでそれを議長に答申をします。先程議長も言われたとおり執行まではやらない。皆さんから出た意見を議長の方に答申すると。だから予算面にしても時期的なことについてもまだ全く考え決まっていないのに4つのことに絞るとか言われても私達も話の進めようがない。ですね。だからその辺を順序正しくやっていただけたらね。

○委員長（金子恵委員）

堤委員。

○委員（堤理志委員）

いろんな事業を今後検討していく中でですね、一つは同僚委員も言われてた理念をしっかり持つかないといけないかなと思っておりまして、例えば、決まったわけじゃな

いですが、仮にコンサートをするっていう場合も、一つは私が考えたのは、これによって、今後成人になる方々あるいは若い、今まで議場に1度も足を運んだことがない方々が議場に来て、この中で、例えば、議長、どなたがあいさつされるか分かりませんが、代表者の議会の代表者の方があいさつをする中で、この間の議会改革の歩みとか、ぜひ傍聴に来て欲しいとか、そういう議会に対する意識づけの契機に非常に役に立つなあと。やはりそういったものとリンクさせていかないと。のど自慢はのど自慢で非常に町民参加じゃあるけども、これに議会が名前だけ貸しても意味がですね、やっぱり議会がやるからには、もっと議会を知って欲しい、議会のこれまでの積み重ねを知って欲しいっていう、そこを知ってもらうためにはやはり議会独自のものが欲しいなど。何かそういう理念とリンクさせて考えていくのが非常に有効じゃないかなと思います。

以上です。

#### ○委員長（金子恵委員）

ほかに進めるに当たって何か皆さんから御意見がないでしょうか。

山口委員。

#### ○委員（山口憲一郎委員）

今、委員長の方からいろいろ意見は出ませんか、出ませんかとずっと言って。意見がもうやっぱり今日言うて今日は無理なところもあるか分からんですけども、ある程度、吉岡委員の意見も出してもらったし、いろいろ議運の前話しよったのも参考にしながらっていうことで、4つぐらいの意見が出たわけですね。その中でやっぱり竹中委員の言いよるのも分かるんですけども、私は先程時間が無いのでという考えしかなかったもんで、ちょっとこう、その辺があるか分かりませんが、やはりこうせっかくなら柱をですね、やっぱりある程度決めて、例えば、吉岡さんのとも、それに引付けてその中で検討していいと思います。それとまた、コンサート、講演については、分けて部会方式でですね、進めて研究をしていった方が先に進むんじゃないかなって私は、個人的に、まあ上手には言えませんが、そっちの方が進んでいくんじゃないかなと思うので、私の意見としては、そういうところでございます。

#### ○委員長（金子恵委員）

今、期間が余り無いというところで、今回、この特別委員会を設置しましたが、期間というのが本事業が終了するまでとなっております。しかし、この特別委員会というのは任期を超えて設置することはできないということもありますし、30年4月29日までが私たちが任期でございますので、そこに最終を置いたとしても、特別委員会を設置した以上は粛々と進めたいというのが私たち正副委員長の考えでございましたので、どのように進めるかというところで、内容的なものというのは今山口委員から提案がありましたように部会方式なり、いろんなやり方はあろうかと思いますが、内容的なものはそちらの方で検討していただいて、特別委員会でどこまで決めるかというのが、ある程度の道筋というのを決めていただけたら、作業の方にすんなりといけるのかなと

いう考えではありました。ですからほかの新しいきちんとした進め方というのがですね、皆様から御提案があれば検討しながら進めたいというふうに考えておりますけれども。

西岡委員。

#### ○委員（西岡克之委員）

先程堤委員が言われたように理念が大事だとおっしゃられたので、それに則して考えれば、最初の記念事業の1のところに関しては十分理解できるんですね、ただその残りの経費の部分をどうするかっていう形なんで、それはもう揉んでもらえばいいと思います。ただ記念事業2、3については相手方との折衝が必要で詳細については特別委員会で進めていく必要があるという書いてますとおりに、何でコンサートなのかと、これは私も議運の中でも申し上げたと思う、何でコンサートなのかと。何で記念講演会なのかとその辺の理念づけが、多分うやむやじゃなかったのかなっていうふうに思いますので、そこをコンサートに限らずにイベントっていう形で、もし今の進め方で行くなれば、理念をしっかりつけてイベントっていう形の理念で作った方がいいんじゃないのかなっていう気がいたします。以上です。

#### ○委員長（金子恵委員）

理念が大事というところで、御提案はいただきましたけれども、この特別委員会は審査調査ですので、今後ですね、その中でどういうふうに調査をしていくかというところで、そこは念頭に置いておりますけれども、一応決議の方で実施検討をするということですので、この決議の目的、実施検討というところでの部分で進めさせていただいてよろしいのかなと思うんですけれども、

吉岡委員。

#### ○委員（吉岡清彦委員）

その部門ごとにするっていうのが、ちょっと危険性を感じるわけですね。先程から出てるイベントとか講演会について、これがまだはっきりしてない中で、今度はその部門で、いろんな所とも折衝して、いつできますかとか、幾らを謝礼が出せますとか何かそういうとこまで入っていくと、もうしなくちゃならんごとになってくるわけですね、相手方との折衝でね。だから、そこまでいったらもう大変なことになると思うわけですね。だからそれをしない、ただするかしないかとかね。あとはまた違った形でするならいいけれども、イベント部門ならイベント部門、コンサート部分ならコンサート部門で集まって、じゃあどの学校に折衝して、いつしようとか、幾ら謝礼が出せますよとかやっぱそういうとこまで入っていくと、もう大変な、今度は取り返しがつかんごとになってくるから、そういうとこは入らない方法の議論をしていかんとね。大変な形になるような気がするわけですね。だからちょっとそここのところのあり方をよく検討してから入らんと。ただ、しますだけで、あとは検討して、いつしますとか、幾ら謝礼が出しますとかいうことにすればいいけれども、もうそこまで入っていかない方でいかんと。ちょっと後が大変じゃないかというのは気がしておりますね。危惧しております。

**○委員長（金子恵委員）**

河野委員。

**○委員（河野龍二委員）**

今、吉岡委員の言われた懸念するところもあるかと思うんですけど、僕は逆に先程予算の部分を言われた背景からすると、じゃあどれくらい掛かるのかっていうのは必要な部分かなと。それでないと予算がどれだけ掛かるか分からんけどやろうっていうふうになるのもちょっと怖いかなというふうになるんで。じゃあどうやったらやれるのかというところを検討すると、当然相手側があることですから、まず出れるのか出れないのかっていう話もちゃんとしないといけないし、出れますって言われたときにじゃあ予算がどれくらい掛かるのかって言われたときに、そこもはっきりしないと本決まりにならないわけですからね。だからそこはやっぱり、先程副議長から言われた作業部会の中で、じゃあ具体的にどうやったらできるのか。それとも、いろいろ検討してもできないものなのかですね、そこをやっぱりこう詰めていってもらえれば、あとがスムーズに行くかなというふうにはちょっと思いますんで、できればそういう形のほうが私もうまくいくんじゃないかなというふうには思うんですけども。

**○委員長（金子恵委員）**

吉岡委員。

**○委員（吉岡清彦委員）**

小委員会は私の頭にもあるわけですけども、そういう中で、結局先程言うように、その部門でやっていくと、もうやるっていう前提のもとでいく可能性が出てくるわけですね。特にそのイベント部門がね、そこんところやっぱり心配するわけですね、あとでいやもうできませんってね。それがよくないから、もう初めからやるっていう前提でそれに取り組んでいく可能性が出てくるわけですね。それをやっぱり懸念するわけですよ。だからこう全体でするのもいいけども、小委員会っていうかな、全体を含めた小委員会でも作ってやってもいいかなっていう気がするわけですね、その中で、より踏み込んだ形のやってもいいかなっていう、私の考えの小委員会はね、そういう気持ちで部門じゃなくしてね、どうしても部門でやってもどうしても進むという自分たちがもうこれで進んでいくという意気込みが出てきますから、はっきり言うてね、どうしても誰だつてね。だからそういう形の全体をちょっと小人数でやる、小委員会というかな、それもいいかなっていう気があるわけですけどね、

**○委員長（金子恵委員）**

全体を考えるその小委員会という考え方も、今、示されましたけれども、実施するに当たり、内容的なものも含めて、さまざまな御意見がございますので、こちらの方を小委員会で進めるという考え方もあるようですが、皆さんのお考えもまた、少々でもお聞かせいただけたらと思いますけれども。

安部委員。

### ○委員（安部都委員）

今、いろいろな議論が出てるんですが、これまで4つ今提案が出されてますよね。それをするのか、それとも町の執行部に一緒に合同で便乗してやるのかっていうことに分かれてると思うんですよね。内容的にはどうのこうのっていうのを別にして、だからそここのところもう少し今の段階ではっきりしとかなないと、小委員会に入ったとしても、内容的に議論がなされないんじゃないかなというふうに思いますので、その辺り賛否をとるかしたほうがよろしいんじゃないですかね。

### ○委員長（金子恵委員）

喜々津委員。

### ○委員（喜々津英世委員）

町が50年の記念事業をやるという、どういう内容を検討されておるのかというのは我々知る由もないんですが、知った人もおられるようですけれども、基本的に議会体として何をするかと。だから、町の記念誌に組み込んでもらえばただでよかやつかと言うけれども、議会が今までやってきたそれを全部役場の実行委員会なり何なりがそういう調査をして資料全部つくってくれるか、あるいは議会改革の今までの状況等を執行部がしてくれるか。できはせんわけです。それは、その乗っかる乗っからは別にしても、予算の問題からいけばそういった方法もあるというのは十分理解しますけれども、いずれにしても議会の50年記念ですから。やっぱり50年の歩み、そういったものは、議会としてきちっと責任に持って作るという、まずこれが大事。ですから予算の問題もいろいろありましたけれども、要するに構想を練って、その構想に伴う経費はどれくらい掛かるのか。じゃあその予算をどうするのか、そういった議論を進めていかんと、はじめからこだけあるけんが、その範囲内で使ってしまうと、そういうものじゃなかと思うんですよね。ですから、私は、先程委員長から出された4つの今出とる案、ここら辺を中心にそれぞれ小委員会ですか。作業部会ですか。こういったものを議員が分かれて全部が参画をしていく。議会運営委員会でも議運でするのもいいけど、全ての議員が、やっぱり議会の50年というのを理解した上で取り組むのが本当じゃないかということで特別委員会設置に動いたわけですので、そういった趣旨を踏まえると、議長を除く15人を2つのグループに分けて検討をしていくと。そして小委員会で作業部会といいますか。やったことは当然全体の全体会で報告調整をしながら進めていくわけですので、そういった方向をどうするかということをごすね、やってもらいたいと思います。

### ○委員長（金子恵委員）

今、部会、または小委員会でそれぞれで進めていくという案が出されましたけども、今4つ提案をされたというだけでこれを決定ということではございません。ただこの4つを、いろいろ全体で話し合ってもなかなかこう厳しいところがございますので、私どもの提案としては吉岡委員の提案を含めた記念誌、そしてイベント、このイベントもするかしないかは分かりません。できるかできないかということも含めまして、部会に

分かれてですね、それぞれで、進めていくっていうのがまず時間とかそういうものを考えたら、いいのかなというふうに考えておりますけれども、どうでしょうか、皆様のご意見がそちらの方でまとめればですね、

堤委員。

#### ○委員（堤理志委員）

委員長がおっしゃったような方向でいいんじゃないかなと思うんです。ただ、吉岡委員が懸念されてる小委員会をつくった場合にそこがもう暴走と言いますか突っ走って、例えばいろんな所との打ち合わせまで進めてもう後戻りできないようなことを小委員会が勝手に進めていくのも心配だと、そういう意味だと思うんで、そこはやはり、そうならないようにお互いがですね、勝手に進めない、ちゃんと手順を踏みながら進めていくということならいいと思います。それとこの50周年記念はあくまでも長与町議会の50周年記念で、思い起こせば私もですね30周年40周年だったんですが、全くそれまではですね、議会が自ら何かやろうという動きはなかったんですね。やっぱり議会改革がずっと進んできたからこそ、今回初めて議会で実質的にやったらどうかっていう、そういう2元代表制の力をね、やっぱりつけてきたのが一つの今回の特別委員会の非常に大きなところだと思うので、やっぱり行政にただ乗っかるんじゃないで、いろんな制約、予算等はあるかもしれませんが、議会体として何ができるかっていうのを考えていくというのは非常にいいことだというふうに思います。以上です。

#### ○委員長（金子恵委員）

安藤委員。

#### ○委員（安藤克彦委員）

ちょっと、この期に及んでって言われるかもしれないんですけども、確認をしたいんですけども、今、するしないは別としてってお話が来てるんですが、結局調査をしたあとに議長に報告するわけですたいね。するしないの判断はあくまでも議長がするしないの判断を出すんですかっていうのが1点。それと記念誌の話が出てるんですけども、記念誌のスパンを本当に3月末、いわゆる改選前までって、本当にしようと思ってるんですかね、その程度の記念誌なんですか。改選が行われるのに改選まであと4カ月5カ月ですたいね、実際もう4月に入ればもうこういった委員会も頻繁に開くことできないでしょうから。そのあとの12月までがまだ長かわけですたいね。なのに手前でぎゅって詰め込んでその間にしてしまわんばとですかね。これ、疑問に残ってるですよ、あえてここで、何でせんばとかなって。次のどなたからもあつたけど、次の議会の期間中、次の改選後も50周年記念の50周年に当たっておるわけですね、そこを無視した感じで、手前の議会だけで終わらせよう、完結させようって。そこが私ちょっと納得いかんというか、ですので1点目の最終決定ですね実施決定がどういった形で行われるのか。と、2つ目は誰が答えられるか分からないですけどちょっと疑問に思うところです。

#### ○委員長（金子恵委員）

1点目のですね、まず、やるかやらないか、何をするかというところの判断が最終的に議長判断になるのかということですのでけれども、議長の方から何かありますか。

議長。

○議長（内村博法議員）

さっきのワーキンググループができるっていう前提ですればですね、ワーキンググループで出た結論を全体会議でかけてもらわんといかんわけですね。この特別委員会で。そこで了解を得られたら、特別委員会が私に報告をすると。私はその報告を受けて、これ実施するなら実施するということを決めると、こういう形になると思います。だから、あくまでも分科会というのは、この特別委員会に置かれたものなんで、随時報告していく必要があるわけですね。この全体会議に。そこで了承を得ながら進めていくと。これが本来の筋だと思います。以上です。

○委員長（金子恵委員）

喜々津委員。

○委員（喜々津英世委員）

2点目は議運で検討してきた経過上、私の方から説明をさせていただきますけれども、この問題は町制施行50周年ということで、議会としても何かしようかというのは6月定例会のあとだったと。具体的に議会運営委員会として議題に上ったのは7月9日の議会運営委員会。それから7月17日、8月7日、ずっと議論をしながら、その間、議会の50年史とか、歴代の議員さんたちがどういう方がおられたのか、議会事務局の協力でデータもできておりますし、議会改革については今議会事務局の方で持っているデータ、これをそのまま生かすそれプラスアルファ若干、検討する事項があると。そうすれば、当然これは年度内にできるという考え方で進めております。議場コンサートについても、7月の段階で是非取り組もうということですね、議運の金子副委員長の方が中学校の方に行っていて、こういう企画はあるんだけどという話をしたところ、子どもたちの発表する機会をつくっていただく、喜んで中学校は協力をさせていただく、ただ、まだ正式決定じゃないのでということで、ずっと今までできております。中学校の都合としては、春休み、1月の7日か8日、ここら辺が都合がいいということでありましたので、それであれば、記念誌についてもデータはある程度あるので。それに合わせて発行できるようにした方が、1月1日が長与町制施行50年と議会も50年になるわけですので、タイミング的にはいいだろうということで、その段階まではそう進めておったんです。その後、これはやっぱり特別委員会を作って、皆さんの意見も聞きながらとするのが適切であろうという意見が出まして今日に至ったわけですので、時間的には議会の記念誌の発行は可能だというふうに思っております。以上です。

○委員長（金子恵委員）

安藤委員。

○委員（安藤克彦委員）



今後決定をどういうふうにしていくかという議長の話は分かりました、記念誌の件ですけれども、私記念誌自体が反対じゃないんですよ。賛成なんですけれども、私の想像する記念誌として、例えば、今おっしゃるのは議会のデータ集を作るっていう考えで聞かされたんですよ、じゃなくて記念誌とは、よくいろんな所の記念誌とかあるけど、1年ぐらい前からずっと原稿ばいろんな今まで関わった方の原稿集めたりとかそういったしているんな方の意見とか、思いとかを掲載したり、編集にもう今の広報の編集でもフォームが決まって皆さんに原稿ある程度していただいた上で、大体1カ月弱かかるわけですわいな。で、こんだけの膨大な記念誌、膨大な量か分からないんですけど、記念誌のもう編集とかそういった校正とかそんがんとを果たして年度内可能なのか。12月ずっとこれが4カ月、5カ月みっちりできるわけではなかいですわいな。果たしてそれが私はいいのかなって、その程度でいいのかなと逆に思うわけですわいな。50周年の記念誌が。で、お答えはなかったんですけども、50周年の年度内には改選も行われ、新たな議員も発生するでしょう、そういった方々も、結局年度内に終わったから掲載しないという形ですね。その関係については、果たしてそれで私はいいのかなと。ちょっと、だから、この記念誌自体には賛成ですけども、年度内に敢えてすることが、だから当然、進めていいと思うんですけども、特別委員会のあれで改選後も同じのが続けられないというのはありますけども、議会体としては続けることは可能だと思うんですよ。それは委員会の都合であって、政策は、途中で一旦切れるかもしれないですけどもその意思っていうのは議会体として引き継ぐことは可能だと思うんですよ。だから敢えて年度内に予算もよく分からないとかっておっしゃっている、そんな状態ですする必要は私はないと、やるならば徹底的に本当に立派なものを作るべきだと。中途半端なものではなくてですね。ていうのが私の意見です。だから、小委員会での議論になってたんですけども、私はもうやるやらないを早目に決めて、ある程度調査必要でしょうから、とにかく早くして、コンサートについても講演会についてもですね。小委員会の中でも、当然、やる意見とやらない意見もあると思うんですよ。ただやる意見側では、ある程度の何ですかね、こういった感じで進めたいと。ただしやらない意見はこういったのであったと併記した形での報告を早急に私は出すべきだと思う。そんな時間ないんですからね、コンサートもあえて1月にする私はまたそこも疑問ですよ、年始の忙しか時期に、ね。それともう1個コンサートでいえば、子どもって連れてくれば保護者は来るんですよ、確かに、参加者はある程度見込めるんですけども、果たしてそこ安易じゃないかなって、別に中学校じゃなくてもよかわけですわいな。そこもっと広げて私は検討が必要ではないかなと思います。コンサートするなら対象が中学校でも決まってるみたい、決まりかけてますけども、もっと対象を広げてすべきじゃないかなと思います。

○委員長（金子恵委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

今までいろいろ今安藤議員もそうだったんですけど、いろんなこの事業について個別の意見が、それぞれ個人的な意見が出てるようなんですが、それと先程から小委員会を作って議論を分けて協議した方がいいんじゃないかと。4つじゃないですか、そんな数はないでしょ。今のところ4つの件について協議をするということですよ。この中でもう1個ずつ議論をしていけばですね、私そんな時間かかるもんかなと疑問に思っとるんです。そこで小委員会まで作ってですね、また結論を持ち寄って、またここで揉んでというよりもですね。1個ずつもう対象事業が見えているのであれば、そのやれるのかやれないのかから、時期をいつにするかとかですね、それも議論をしていけば早く終わるんじゃないかと思うんですが。

**○委員長（金子恵委員）**

浦川さんの御意見も今ございましたけれども、多分山口委員も最初おっしゃいましたし、委員長の意見は本当はどうなのかと思いますけれども、検討するに当たって全員で揉むよりも、ある程度小さい分科会みたいにした方が意見も出やすく進むのではないかという考えの下で分科会の提案があったんじゃないかというふうに考えております。

浦川委員。

**○委員（浦川圭一委員）**

今なかなかこの話がまとまっていけないのがですね、例えばコンサートの話に飛んでみたりとか、記念事業に話がまた行ってみたりとかでなかなか結論を求められないのですね、それでもなかなか話がまとまらないという状況になってるんじゃないかなというふうにちょっと感じたもんですから。

**○委員長（金子恵委員）**

喜々津委員。

**○委員（喜々津英世委員）**

作業の効率性ということを考えれば、全員でやるよりも例えば2つなら2つに分けてそれぞれ2つの部門を検討する、それをまた次の全体の委員会の中で、報告をし意見を聞いて検討を加えると、そっちの方がはるかに効率がよかわけですね。ですから、今、浦川委員が言われましたけれども、委員会を作れば、もうあっち飛びこっち飛びじゃなくてそれに直結した議論が十分進められるわけですので、是非そういう方向で進めてもらいたいと思います。

**○委員長（金子恵委員）**

饗庭委員。

**○委員（饗庭敦子委員）**

小委員会を作ること自体私も賛成です。ただ、やはりここですね、せっかく議長が諮問して議長の思いとしては今の任期中にやりたいということで諮問をされたんだというふうに理解をしております。その中でやるのかですよ、今違う意見も出ているので、そうじゃなくて延ばしてやるのかを決めないでですね、なかなか先へは進まないかと思

うんですね。だからそこをして、やはりせっかくやるんですから議会体としてやりたいということで皆でやりたいからやるんですから、やりたいという方向に、是非こうなっていたといいかなと。特別委員会で議決もしたわけですから、やるという方向の中で、それじゃどうやってやるかっていうので、やはりこの任期中がいいんじゃないかというのが多分議長が諮問した意味だろうと、私はですね解釈をしております。だから、その方法がいいのか、それともやっぱり年度内じゃなくって次の年度も含めて、長くやってやるかっていうのを決めてはどうかなというふうに思います。

**○委員長（金子恵委員）**

竹中委員。

**○委員（竹中悟委員）**

今の饗庭さんのも一緒だけどね、要はなんで3月までやらなくちゃいけないということですね、私たちの任期中にね。任期中はさっき委員長が言われたのは少し間違いがある。要は特別委員会はもちろん任期中で終わるんだけど、その間にその答申をすればいいことであって、事業を済ませるとのことじゃない。来年1年間、行政もやるんだからうちもやれば当然補正予算も当初の中で話し合いがつくわけで、こういうことやりたいんだと。だからそういうふうな合理的な考えもあるしね。だから何でその1年かけてやらないのか、これは僕も不思議でたまらない。そして何で先程から話してるけど、議会が議会体が独自でやるというのを非常に主張されてるけど、僕はそこは必要ないと思うんですね、議会は議会の特異性を持って一緒にやればいいわけだね。別に結局乗ってしまうというのが1番楽だけど、皆さんの意見を聞いてたら記念誌を出すのであればそれなりに出せばいいんですよ、一緒になって。その予算については当初予算の方からやっていけば、問題は無いわけですね。これを無理やりやるから予算も限られてくるし、時間的にも大変だし、そして、さっき言われた今までの議員、現職の議員だけでいいのか。来年改選の後の議員のことは全く私達は知りませんよで済ませるのかね。そういう問題も解決できるわけです。だから時間を少し掛けて、そして慎重にやっていった方がいいと思いますよ。

**○委員長（金子恵委員）**

しばらく休憩します。

（暫時休憩）

**○委員長（金子恵委員）**

休憩を閉じて委員会に戻します。本日は皆様からいろんな御意見を賜りました。これに関してはまとめて資料をお作りして、次回に持ち越したいと思います。その内容的なものというのは今日の皆様から話し合いいただいたものをベースに作って行って、次回の委員会が11日9時半からということで予定をしたいと思います。今日は以上で終わりたいと思いますけれども、その他皆様から何かございませんか。ないようでしたら、本日の長与町議会50周年記念事業特別委員会を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

(閉会 1 1 時 2 7 分)